2023年度
日本語教育学会
春季大会
一般公開プログラム

境界の外側から見える日本語教育学

―異なる専門分野から見えてくるもの―

他分野の専門家によるライブディスカッション

公益社団法人
日本語教育学会
Association for Japanese Language Education

2023年5月27日（土）
10:00～12:00

オンライン開催
定員：先着1,000名
Zoomウェビナーにて開催
司会：倉八順子
（東京富士語学院・調査研究推進委員会委員）

安藤寿康（あんどう じゅこう） 氏

行動遺伝学（慶應義塾大学文学部教授）

倉八先生が大学院に来たとき（たぶん３０年以上前）私は大学の助手をしていました。コミュニカティヴ・アプローチのすばらしさを訴える倉八先生の話を聞いて、天邪鬼（あまのじゃく）の私は文法訳読式の教授法だって向いてる人もいるはず（私もその一人と思っていました）と議論を吹っかけて、じゃあエビデンスで検証しようということで、大学に子どもたちを集めて比較実験をおこなったのがこのシンポジウムにつながるご縁です。そこにふたごの子どもたちを呼んでおこなったのが、いまの私につながる大規模双生児研究、行動遺伝学研究のはじまりでした。当日は、そのなつかしい、そしていまでも意義深い研究結果の紹介をもとにしつつ、最近の行動遺伝学の知見までご紹介して、教育が遺伝的素質を開花させる可能性についてお話ししたいと思います。

参加費無料
申し込み不要
手話通訳あり

加藤三保子（かとう みほこ） 氏

手話言語学（豊橋技術科学大学特任教授）

幼少の頃に電車内でろう学校の生徒たちが両手を使って会話をしている姿を見て、「どうやって手で話ができるの？」と不思議に思ったのが、私が手話に関心をもった瞬間です。実際に日本手話を学んだのは大学卒業後ですが、その魅力に引き込まれ、手話言語とろう者社会に関する研究を継続しています。手話の言語体系は音声言語と大きく異なるため、日本手話を母語とするろう児（者）にとって日本語の習得は容易ではありません。今回は、日本語を学ぶ留学生が置かれた立場を重ね合わせ、「言語を学び、使うこと」の意味を改めて考えたいと思います。

久保昌弘（くぼ よしひろ） 氏

食育、食文化（学校法人 辻料理学館「辻調グループ」／日仏経済交流会理事）

私は、フランスに通算１８年滞在、仏語を学び、食の教育に関わってきました。その経験を通して、自身のアイデンティティと日本語の美しさに気付かされました。人間は、火を使い、言葉を操ります。食と言語は、そのいずれもが生きる根源的要素であり、その二つの親和性に興味を持ちました。食文化のグローバリズムとロカリズム、記憶の教育（教科書的）と思考の教育（対話的）、それらが共存、両立する社会への関心とともに、交流、相互理解と尊重から、対等性、自己確立、人間の幸福、安寧の社会、平和について考えてきました。その土台となっている、多様性、多文化共生、複言語主義について、「境界の外」からの私の経験、考察が、皆様の何かの気付き、今後の取り組みのヒントとなり、お役に立てれば幸いです。今回、御学会での貴重な機会を頂き、光栄です。そして、私自身、日本語から大事なことを学び続けたいと思います。

当日の視聴方法については、4月中旬に学会ウェブサイトでご案内します。

主催：公益社団法人日本語教育学会
企画：調査研究推進委員会
助成：一般社団法人尚友倶楽部
問い合わせ先：公益社団法人日本語教育学会
〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会２Ｆ
TEL 03-3262-4291 E-mail: office@nkg.or.jp
https://www.nkg.or.jp